



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

昭和大学歯科病院 病院長 馬場 一美

どなたにでも人生の師と呼べる方がおられると思います。私にとってもそういった方が何人かいらっしゃいますが、その中のひとりが Prof. Glenn T Clark です (University of Southern California ; USC 教授, 本学客員教授)。私が1996年にUCLAに留学したときのメンターで、その後、USCに移られましたが、20年以上に渡ってご指導いた



だいています。ご専門は三叉神経領域の運動障害、睡眠障害から口腔顔面痛領域まで多岐に渡りますが、いずれの分野でも世界のトップレベルの研究・臨床を展開されており、昭和大学へも2011年にサバティカルを利用して6ヶ月間、滞在されています。

彼から私が学んだ最も大切なことは、教育の重要性と尊さです。留学中の何気ないラボ仲間の会話で、学生講義について話題にのぼったことがありました。世界中から若手研究者・教員が集まっていたので興味深く聞いていたのですが、そのうちの一人から、講義の準備をする過程で自分の知識が整理されるので、学生講義をするのは悪くないといった趣旨の発言がありました。わたしも学生講義を担当し始めたところで、同じような経験をしていたので、世界中どこでも変わらないなと思って聞いていました。その時、Clark先生が“それは少し違うのではないだろうか？”と語り始められました。Clark先生曰く、講義では、学生にとって最も重要なことを、最も適切かつ合理的な形態で提供することに最大限の努力をはらうべきである、自分がいかに多くの知識もち優秀な教師であるかをひけらかすのではなく、主体はあくまで学生である。そして教育者には教育に携わるといふ誇りをもって、その責務をまっとうする義務がある、とのことでした。

もちろん、学生のための講義であることは理解していたつもりですが、これらの言葉は研究主体で送った留学生活であったにも関わらず、もっとも強く心に刻まれました。

また、Clark先生は常々、もし生まれ変わってもまた“Teacher”になりたいとも言われていました。そういった姿勢が多くの弟子を世に送り出し、彼らが世界中で活躍している現状の源になっているのだと思います。奇しくも先日他界された野村克也さんも“財を残すは下、業を残すは中、人を残すは上”という言葉を大切にされていたそうです。

2月21日の白衣授与式を経て、学生たちはこれまで学んできた知識・技能の総括である臨床実習へと進んでゆきます。学生たちが実り多き実習を経験できるように、私ども教員が力を併せて最大限の努力をしたいものです。昭和で学んだ彼らが卒後、大活躍することを夢見ながら。



(写真, USC での研究打ち合わせ)

歯科医師国家試験が実施されました

D6チューター会議 船津 敬弘

第113回歯科医師国家試験が2月1日、2日の2日間実施され、本学は東京工科大学蒲田キャンパスで、他の関東圏の大学と共に受験をいたしました。各大学とも例年より多くの関係者が多数応援に駆け付けており、毎年の光景となりましたが、会場前は応援する熱気に溢れておりました。2日間とも天候に恵まれ、初日には榎歯学部長、高橋教授、美島教授、嶋根教授らが2日目には高橋教授、桑田教授、宗像准教授らをはじめ多くの教員や先輩、後輩が集まり、受験生の緊張をほぐし、激励すべく皆で声かけを行いました。本年度は92名の卒業生を国家試験の場へと向かわせました。殆どの6年生をこの会場に送ることができたのも、本人達の努力も勿論ですが多くの教員や、関係者の方々のご助力のおかげと感謝しております。大きな期待を持って3月16日(月)午後2時に発表される結果を待ちたいと考えております。

大学院歯学研究科春季Ⅱ期入試・MDプログラム試験が行われました

大学院歯学研究科長 高見 正道

令和2年度大学院歯学研究科春季Ⅱ期入学試験が2月15日(土)、旗の台キャンパス4号館6階600号講義室にて実施されました。歯学研究科の受験者は、午前9時からの外国語試験(3時間)のあと、午後1時より専門科目の面接試験を受けました。

今回の志願者は、社会人特別選抜9名(8名は4年次の成績上位者の中から採用された特別奨学生)、および一般選抜6名(3名は日本大学、九州歯科大学、新潟大学からの受験生)で、計15名(男9名、女6名)が受験しました。また、同日午後よりマルチドクター(MD)プログラムを志願する歯学部3年生(3名)が希望する研究室で面接試験を受けました。

昨年11月に実施された春季Ⅰ期試験(6名)と今回の試験で計21名が大学院入試を受験したことになります。受験生の皆さん、お疲れ様でした。



昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力の報告会が開催されました

歯科矯正学講座 高橋 正皓

平成27年度に歯学部から初めて昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力活動に参加させていただいて以来、今回4年ぶりに参加する機会を与えていただきました。今年で本活動は9回目を迎え、歯学部から矯正歯科医が参加して5回目となりました。

マダガスカル共和国の国内総生産は、日本の約1/84で、国民の約90%が1日200円以下での生活を余儀なくされています。歯科治療費は高額で、十分な歯科治療を受けられるマダガスカル共和国の国民は一握りです。歯を磨く習慣がない人も多く、口腔衛生状態が不良な患者も多く見られます。日本でいう国民皆保険制度が確立されていないことが、多くの国民が歯科治療を含めた医療を十分にうけることができない最大の理由と考えます。

口唇口蓋裂は、最も発生頻度の高い先天性疾患の1つで、主に審美障害、言語障害、咬合異常を呈することから、集学的なチーム医療が必須です。本活動の主な目的は、口唇口蓋裂の口唇鼻形成術や口蓋形成術といった手術を行うことですが、その後の治療をどのように行っていくのかという課題も残っています。

近い将来、昭和大学と同じように口唇口蓋裂におけるチーム医療の実践に向けて、数年前からマダガスカル共和国の医師や歯科医師が昭和大学の各講座に留学し、専門的な技術や知識を習得する新しい支援も開始されています。矯正歯科では、口腔内スキャナーや3Dプリンターといったデジタル技術を利用した矯正歯科治療の診断や、治療における遠隔地医療支援も実現できるように準備を進めています。

末筆ではございますが、大変貴重な機会を与えていただきました曾野綾子先生をはじめ、笹川保健財団の関係者の皆様、昭和大学の関係者の皆様、サポートしていただきました皆様、そして素晴らしい派遣メンバーの皆さんに改めまして深く感謝を申し上げます。



昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力の報告会が開催されました

歯学部5年 池端 陽介

1月31日マダガスカル口唇口蓋裂医療協力の報告会が開催されましたので、報告内容やマダガスカルで経験したことをここに報告させていただきます。

私がこのプロジェクトを通して学ぶことが出来たことは大きく2つあります。

1つ目は医療面です。今回口唇口蓋裂だけではなく熱傷や多指症などの先天疾患など多岐に渡る症例を見ることが出来ました。また日常生活に炭を使うため小児の熱傷が多いなど、症例には地域特異性があることもとても興味深かったです。手術では団長である土佐先生をはじめとする形成外科の先生方や麻酔科の先生方、矯正科の高橋先生など沢山の先生から多くのことを学ぶことが出来ました。

2つ目は医療ボランティアの在り方です。私は以前から医療ボランティアに強い興味を持っていたのですが、医療資源の寄付を行い、現地で診察をすることが主な内容だと思っていました。しかし今回のプロジェクトを通して、こちらが何かを施すのではなく現地の人々が個々の力で医療を行える環境を作っていくことが最も大切な仕事であると学びました。今回学んだこと、感じことを過去の体験とすることなく、日々成長していきたいと思っております。



ホーチミン市立医科薬科大学から ラン歯学部長が訪問されました

歯学部国際交流担当 桑田 啓貴

2月21日(金)、提携校ベトナム・ホーチミン市医科薬科大学(UMP HCM)歯学部の先生が昭和大学を訪問されました。

昨年10月、昭和大学国際交流センターのメンバーでUMPを訪れましたが、その際にお会いしたラン歯学部長に加えて、メオ先生(歯周病科)、ヴィン先生(歯科材料学)がお越しになりました。ラン先生は、まず国際交流センターで宮崎センター長と面談、大学紹介ビデオをご覧になった後、馬場歯科病院長と意見交換されました。歯科病院の診療科構成や医系大学における歯学部の位置づけ等にご関心を示されました。また、わずか15分ほどでしたが、歯科病院の歯科技工士をご見学され、歯科診療室とシームレス化されたデジタルラボの運用方法にもご興味を示されていました。その後再度移動し、国際交流センターのメンバーと昭和大学とUMPとの今後の連携のあり方について意見交換を行いました。

ベトナムは歴史的にフランスと結びつきが強く、現在もフランスの各大学から歯学部学生を多数受け入れており、UMPではスケーリングや簡単な歯科治療の実施を許可しているとのことでした。日本では学生が在学中に診療行為をする機会が減っていることを考えると、国ごとに歯科教育を取り巻く環境が異なることがわかります。昭和大学の学生がUMPを訪れた場合でも、語学力や成績などの条件を満たすことで、UMPで歯科治療を行うことが可能とのことでした。

気になる新型コロナウイルス肺炎ですが、中国を発端として、世界中で感染が拡大し収束する気配はありませんが、ベトナムは中国と陸続きであるにもかかわらず、それほど深刻な問題になっていないとのことでした。記事執筆時点では、ベトナムでの感染ケースは16、死亡例が0でした。他の東南アジアの国等のケースを見ても同様で、温かい地域ではあまり感染が拡大しないのかもしれませんが。



医学部併願入試二次試験が 実施されました

入学支援課 鳥山 ちひろ

令和2年度医学部一般選抜入試I期利用の歯学部併願入試[一次試験]が、1月24日(金)に東京試験場、大阪試験場、福岡試験場の3試験場にて医学部・薬学部と同日に実施されました。

医学部一般選抜入試I期利用の歯学部併願入試とは、医学部志願者のうち、内在的な歯学部・薬学部志願者に対して医学部一般選抜入試I期[一次試験]を受験すると2学部以上の合否判定が可能であり、歯学部への受験のチャンスが広がる入試です。その他、受験料が通常より割引になることや、従来の3学部一般選抜入試と医学部一般選抜入試の連日受験による負担が軽減されること、また転部入学制度の適用の対象であるというメリットがあります。

医学部一般選抜入試I期利用の歯学部併願入試(3名募集)の志願者数は、61名であり、翌週の1月29日(水)に一次試験合格者を発表いたしました。

また、2月1日(土)・2日(日)と2日間に分けて医学部一般選抜入試I期利用の歯学部併願入試[二次試験]が医学部・薬学部同日で旗の台キャンパスにて実施されました。試験当日は天候にも恵まれ、両日ともに特に大きなトラブルもなく2月3日(月)に合格者を発表いたしました。



大学入試センター試験利用入試 (B方式:地域別選抜)二次試験が 実施されました

入学支援課 鳥山 ちひろ

令和2年度歯学部大学入試センター試験利用入試(B方式:地域別選抜)二次試験が、2月11日(火・祝)に旗の台キャンパスにて全学部同日に実施されました。

大学入試センター試験利用入試(B方式:地域別選抜)とは、全国を6つの地域(「北海道・東北・北関東」、「南関東」、「東京」、「中部」、「北陸・近畿・中国」、「四国・九州・沖縄」)に分けて、その地域ごとに入学者を選抜する入試です。地域は、出身高校の所在地となります。また、各地域の上位合格者1名(計6名)には初年度の授業料が免除になる特待制度を設けております。

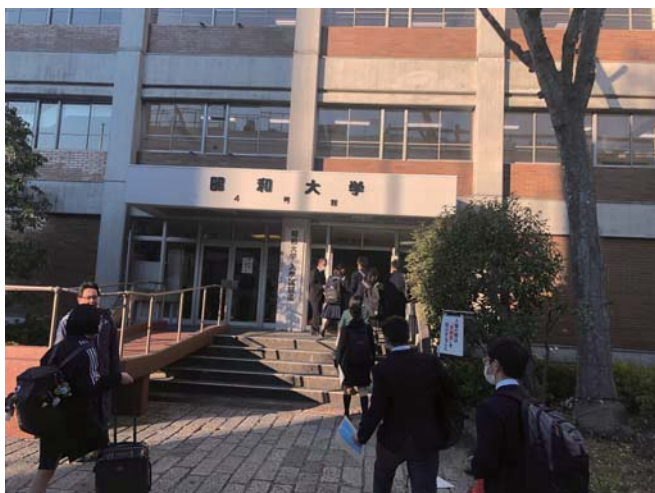
実施3年目となる今年度の志願者数(各地域1名募集[計6名])は、18名であり、6つ全ての地域からの出願がありました。

一次試験は、1月18日(土)・19日(日)の大学入試センター試験を各自受験し、その結果を基に2月5日(水)に一次試験合格者を発表いたしました。

また二次試験日当日は、天候にも恵まれ、特に大きなトラブル等もなく、無事に終了することが出来、翌日2月13日(水)に合格者を発表いたしました。

昨今、歯学部の志願者獲得が厳しい中、日々の入試広報活動および入学試験の運営・実施にご協力をお願いしました教職員の皆さまには、心から厚く御礼を申し上げます。

残すところ、今年度の入試は3月8日(日)の一般選抜入試Ⅱ期のみとなりました。お忙しい中ご協力いただきます教職員の皆さま、引き続きお力添えの程宜しくお願い申し上げます。



口の成り立ち

—解剖屋からのつぶやき—

口腔解剖学講座 中村 雅典

私たちが専門とする口腔という器官は、進化の過程で最も新しく出現した構造である。

今から約4億5千万年前、古生代シルル紀に最古の脊椎動物が海の中に出現した。それまでは原口として消化管の出入り口は1つであったものが、脊椎動物の出現で初めて口と肛門が分かれた。原口が肛門となったのが私たち脊椎動物で、口になったのが昆虫動物である。

それゆえ、私たちは新口動物、昆虫は旧口動物とも呼ばれる。最初の脊椎動物である円口類は顎がない。やがて約4億年から3億5千万年前の古生代デボン紀になると魚類が出現した。魚類には顎骨が形成された。その後の上陸に伴い、呼吸のために必要であった鰓弓筋が舌へと変化した。

口が形成されることに伴い、視覚、味覚等の感覚器が顔面に集中し、獲物を感知する機能と速やかな捕食を営むために中枢神経系が発達した。

口は長い年月を経て、今のような構造と機能を獲得した。私たちは口を栄養補給の入り口としてだけでなく、愛情表現や情報交換の道具としても使用している。このように、口は生命進化の流れの中では最も新しい器官と言える。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 3月8日・一般選抜入試Ⅱ期
- 3月16日・第113回歯科医師国家試験合格発表
- 3月18日・卒業式
- 3月24日・大学院修了式
- 3月26日・新D4オリエンテーション

編集後記

口腔病理学部門 田中 準一

本年2月は月末となって朝夕はともかく昼間は春の気配を感じられるようになりました。

2月前半には入学試験、国家試験をはじめ多くの試験が実施されました。業務に携わっていただいた先生方は体調を崩さないようお気を付け下さい。

また2月後半には新型コロナウイルス感染拡大により多方面に影響が出ました。本学でも2月末は行事が中止となり3月にはさらなる影響が出る事が予想されます。感染拡大防止に努め、一刻も早い収束を願う次第です。末筆となりましたが、原稿を御執筆してくださいました先生方に、厚く御礼申し上げます。